NIE実践報告

1．タイトル：☆縄文ワールドを調べよう・まとめよう

2．学校名

北海道函館市立神山小学校

3．実践者名（代表者名）

深澤昌明

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科・総合的な学習の時間　33人（6年3組）

6．単元（本時の学習課題）名

縄文ワールドを調べよう

7．目標(狙い)

縄文時代の人々の暮らしを、地元の遺跡見学や修学旅行での見学、さらには新聞記事を参考にしながら調べていく。

8．評価の視点

見学や新聞などから山内丸山遺跡や道南地区の縄文遺跡の規模や暮らしの特徴をつかむことができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

社会科における「国作りへの歩み（教育出版）」の発展教材として取り上げ、総合的な学習とリンクさせた。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・社会科~　基礎的な歴史的な背景を学ぶ
　発見・体験大昔の暮らしを（1時間）
　国作りへの歩み（4時間）
・総合的な学習の時間
　探ろう縄文ワールド
　※昨年行った大船遺跡の見学・体験を思い出す（1時間）
　※山内丸山遺跡の歴史的背景・見学のテーマ・見学内容を整理する（5時間）
・（本時）道南に発見された縄文時代及びその近辺の遺跡の新聞記事から各地を比較し、縄文時代の人々の生活の相違点を整理する。
・縄文新聞を作成する。（社会科1時間・総合的な学習2時間・国語「情報をまとめる（教育出版）」4時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞記事から色々なことがわかることの不思議さと、新聞にある情報量の多さに感動した。
・自分達が見たことを新聞という客観的な資料を使うことでよりはっきりとさせることができた。

12．成果と課題

・社会科・国語科。そして総合的な学習と横断的に行った学習は子どもたちに考えをまとめると言った一貫した学習を提供できた。それらを結ぶ「連結器」となったのが新聞である。生きた資料を提供できたこともよかった。
・今回は5年前の新聞記事も利用した。毎日の新聞も生きた資料はあるが、過去の貴重な記事も生かせる方法が必要ではないかと考える。